

アンチ・ドーピング規程 新旧対照表

現 行	改 定 (案)	備考
<p>アンチ・ドーピング規程</p> <p>本規程は、定款50条に基づき、ドーピングに関し必要な事項を定める。</p> <p>第1条の2 [ドーピングの禁止]</p> <p>本協会は選手の健康を保持するとともに、試合の公平な実施を確保するため、ドーピングを禁止し、<u>ドーピング検査を実施</u>する。</p> <p>第1条の3 [公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構]</p> <p>本協会は、前条の<u>ドーピング検査を実施</u>するため、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(以下「JADA」という。)に加盟し、<u>ドーピング検査を委託</u>する。</p>	<p>アンチ・ドーピング規程</p> <p>本規程は、定款50条に基づき、<u>アンチ・ドーピング及びこれに関連する活動</u>に関し必要な事項を定める。</p> <p><u>第2条 [本規程の適用]</u></p> <p><u>1. 本規程は以下の者(以下、「対象者」という。)に対して適用される。</u></p> <p><u>(1) 本協会</u></p> <p><u>(2) 選手</u></p> <p><u>(3) サポートスタッフ</u></p> <p><u>(4) 本協会の権限下にあるその他の者</u></p> <p><u>(5) 加盟団体(その下部組織を含む。)</u></p> <p><u>2. アンチ・ドーピング規則違反又は本規程のその他の違反に対しては、制裁措置が適用される。</u></p> <p>第2条の2 [ドーピングの禁止]</p> <p><u>1. 公益財団法人日本サッカー協会(以下、「本協会」という。)は、選手の健康を保持するとともに、試合の公平な実施を確保するため、ドーピングを禁止する。</u></p> <p><u>2. 本協会は、前項の目的のため、本規程に従い、ドーピング検査を実施する。</u></p> <p>第2条の3 [公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構]</p> <p>本協会は、前条の<u>目的を達成</u>するため、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(以下「JADA」という。)に加盟する。</p> <p><u>第2条の4 [アンチ・ドーピング規則]</u></p>	

第1条の4 [世界アンチ・ドーピング規程]

1. 公益財団法人日本サッカー協会（以下「本協会」という。）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（以下「JADA」という。）が定めるドーピング・コントロールの開始、実施及び実行することについて支援し、世界アンチ・ドーピング規程（以下「世界規程」という。）及びFIFAアンチ・ドーピング規程（以下「FIFA規程」という。）並びに日本アンチ・ドーピング規程（以下「日本規程」という。）に基づく全ての義務を履行する責任を担う。

2. 「世界規程」に基づき、本協会は以下の役割及び責任等を担う。

（1）本協会のアンチ・ドーピング規範及び規則が、「世界規程」を遵守することを確保し、「世界規程」、「FIFA規程」及び本規程並びに「日本規程」（第23条を含む。）を遵守すること。

（2）JADAの自治を尊重し、その運営上の決定及び活動を妨げないこと。

（3）本協会に加盟する団体（以下「加盟団体」という。）に対し、アンチ・ドーピング規則違反を示唆する又は当該違反に関連するいかなる情報もJADA及び国際競技連盟に報告すること、及び、ドーピング検査を行う権限を有する全てのアンチ・ドーピング機関が行うドーピング捜査に協力することを要求すること。

1. 対象者は、JADAが定める日本アンチ・ドーピング規程（以下、「日本規程」という。）及び国際サッカー連盟（以下、「FIFA」という。）が定めるFIFA Anti-Doping Regulations（以下「FIFA規程」という。）を遵守する義務を負う。

2. 日本規程とFIFA規程との間に齟齬が存在する場合には、FIFA規程を優先する。

第3条 [JADAとの連携・協力]

本協会は、JADAが行うアンチ・ドーピング活動について連携、協力、支援するとともに、日本規程および世界アンチ・ドーピング機構（以下、「WADA」という。）が定めるWorld Anti-Doping Code（以下、「世界規程」という。）の諸規則及び国際基準（以下、単に「国際基準」という。）に基づく義務履行する責任を負う。

第4条 [J-Fairnessとの連携・協力]

本協会は、日本規程に基づく日本スポーツフェアネス推進機構（以下、「J-Fairness」という。）の権限と責務を尊重し、J-Fairness及びJADAと連携、協力し、ドーピング検査体制の中立性と独立性の確保を確実なものとする。

第5条 [役割と責務]

本協会は、次に定める義務および責務を負うものとする。

(4) JADAに協力すること。

(5) FIFAに協力すること。

(6) 「加盟団体」に対し、「加盟団体」又はその下部組織により承認され又は組織される競技会又は活動において、コーチ、トレーナー、マネージャー、チームスタッフ、公式役職員、医師又は医療従事者として参加する各サポートスタッフに対して、「世界規程」及び「日本規程」に準拠するアンチ・ドーピング規則及び結果の管理を所轄するアンチ・ドーピング機関に従うことに同意することを当該参加の要件として要求する規則を定めることを要求すること。

(7) アンチ・ドーピング規則に違反した競技者又はサポートスタッフに対し、資格停止期間中、交付金及び助成金の交付の全部又は一部を停止すること。

(8) 「世界規程」及び「日本規程」に違反した加盟団体又はその下部組織に対し、交付金及び助成金の交付の全部又は一部を停止すること。

(9) サポートスタッフは又はその他の人が各ドーピング事件に関与しているか否かのドーピング捜査を含む自己の管轄内における全てのアンチ・ドーピング規則違反の可能性を積極的に追求すること。

(10) アンチ・ドーピング教育を推進すること（加盟団体に対しJADAと協力してアンチ・ドーピング教育を行うよう求めることを含む。）

(11) 関係する国内機関及び団体並びに他のアンチ・ドーピング機関と協力すること。

1. 本協会は、以下の義務を負うものとする。

(1) 日本規程第22条に定める役割と責務

(2) FIFAから世界規程第20.3に基づき求められることを履行する責任

(3) 教育に関する国際基準に基づく、選手及びサポートスタッフらへの教育の実施のための教育計画の策定、実施、モニタリング、評価

第6条 [選手の役割と責務]

選手は、日本規程第24条に定める役割と責務を負う。

第7条 [サポートスタッフの役割と責務]

サポートスタッフは、日本規程25条に定める役割と責務を負う。

第8条 [相互承認]

1. 本協会は、「世界規程」に従い、署名当事者（WADAに対して、世界規程に拘束されることを誓約した機関。以下に同じ）の権限内でなされる検査、聴聞会の結果、又は当該署名当事者によるその他の最終的な決定を承認する。

(12) 正当な理由によることなく禁止物質又は禁止方法を使用しているサポートスタッフが競技者に対して支援を提供することを防ぐための懲戒規則を設けること。

第1条の5 [FIFA規程の優先]

日本規程とFIFA規程との間に齟齬が存在する場合には、FIFA規程を優先する。

第2条 [アンチ・ドーピング規程の適用]

1. 本規程は以下の者に対して適用される。

(1) 本協会

(2) 競技者

(3) サポートスタッフ

(4) 本協会の権限下にあるその他の者

(5) 加盟団体（その下部組織を含む。）

2. アンチ・ドーピング規則違反又は本規程のその他の違反に対しては、制裁措置が適用される。

第3条 [義務]

2. 本協会は、前項の決定等が「世界規程」を受諾していないその他の機関により行われた場合であっても、当該機関の規則が「世界規程」に適合していることを条件として、これを承認する。

3. 競技者、サポートスタッフ、その他の人、又は加盟団体が本規程に基づく本協会に対する義務に違反することは、本規程に違反する。

第9条 [本協会が課す制裁措置]

1. 対象者がアンチ・ドーピング規則に違反した場合、当該対象者には日本アンチ・ドーピング規律パネルの決定に従い制裁が科される。

2. 前項に加え、本協会理事会は別段の決定により、当該行為の「世界規程」及び「日本規程」への違反の程度に従って、追加的制裁を課することができる。これらには、日本代表選手の資格の剥奪、本協会からの交付金、助成金及び補助金の交付の全部又は一部を受ける資格の剥奪、若しくは、本協会における公的資格の剥奪が含まれる。

3. 前項の追加的制裁の決定において、本協会は、アンチ・ドーピング機関によって課された過去のあらゆる制裁措置を考慮するものとする。

第10条 [結果管理手続及び決定の効力]

1. 競技者は、以下の義務を負うものとする。

(1) 適用される全てのアンチ・ドーピング規範及び規則、すなわち「世界規程」、「FIFA規程」、「日本規程」(第24条1項を含む。)、本規程並びにアンチ・ドーピング機関、国内競技連盟及び国際競技連盟の政策及び規則を理解し、遵守すること。

(2) 検体採取にいつでも応じること。

(3) アンチ・ドーピングと関連して、自己が採取し、使用するものに責任をもつこと。

(4) 医療従事者に、禁止物質及び禁止方法を使用してはならないという自己の義務を伝え、自己に施される治療が、自己に適用されるアンチ・ドーピング規範及び規則に違反しないことを確認する責任をもつこと。

(5) JADA及び競技者が所属する国際競技連盟に対して、この10年以内にアンチ・ドーピング規則違反を行ったとする非署名当事者によりなされた競技者に対する決定を開示すること。

(6) アンチ・ドーピング規則違反をドーピング捜査するアンチ・ドーピング機関に協力すること。

2. 本協会に通常登録していない競技者は、日本代表選手団の一員としてオリンピック競技大会に参加するための条件として、オリンピック競技大会の開催日の1年前から、「世界規程」に従い実施された検体採取に応じ、正確な最新の居場所情報を定期的に提出する。

3. 本協会に加入していない競技者で、JADAの検査対象者登録リストに加わる要件を満たしている競技者は、国内競技連盟に加入しなければならず、競技者が所属する国内競技連盟の国際競技大会又は国内競技大会に参加する少なくとも6か月前に、検査を受けるものとする。

アンチ・ドーピング規則の違反に係るすべての事案は、当該事案を管轄する結果管理管轄機関の手続により処理され、その決定は本協会を含むすべての国内競技団体(その加盟組織及び下部組織を含む)を拘束する。

4. サポートスタッフは、以下の義務を負うものとする。

(1) 自らに又は支援する競技者に適用されるアンチ・ドーピング規範及び規則、すなわち「世界規程」、「FIFA規程」、「日本規程」(第24条2項を含む。)、本規程並びに国際アンチ・ドーピング機関、国内競技連盟及び国際競技連盟の規範及び規則を理解し、遵守すること。

(2) 競技者の検査プログラムに協力すること。

(3) 競技者の価値観及び行動に対する自己の影響力を行使しアンチ・ドーピングの姿勢を育成すること。

(4) JADA及びサポートスタッフが所属する国際競技連盟に対して、この10年以内にアンチ・ドーピング規則違反を行ったとする非署名当事者によりなされたサポートスタッフに対する決定を開示すること。

(5) アンチ・ドーピング規程違反をドーピング捜査するアンチ・ドーピング機関に協力すること。

(6) 正当な理由なくして、いかなる禁止物質又は禁止方法も使用しないこと。

5. 本協会は、以下の義務を負うものとする。

(1) 「世界規程」、「FIFA規程」及び本規程並びに「日本規程」(第23条を含む。)を遵守すること。

(2) JADAが「世界規程」及び「日本規程」に基づく義務を遂行することに協力し、かつ、これを援助すること。

(3) アンチ・ドーピング規則違反を示唆する又は当該違反に関連するいかなる情報もJADAに報告すること、及びドーピング捜査を行う権限を有するアンチ・ドーピング機関が行うドーピング捜査に協力すること。

(4) 「世界規程」及び「日本規程」に準拠するアンチ・ドーピング規範を採択し、実施すること。

(5) その国際競技連盟が日常的なアンチ・ドーピングプログラムを実施することに協力し、かつ、これを援助すること。

(6) 全ての競技者、及び国内競技連盟又はその加盟機関の1つによって承認され又は運営される競技会又は活動において、コーチ、トレーナー、マネージャー、チームスタッフ、公式役職員、医師又は医療従事者として参加する各サポートスタッフに対し、「世界規程」に適合するアンチ・ドーピング規則及び結果の管理を所轄するアンチ・ドーピング機関に拘束されることに同意することを、当該参加の要件として要求すること。

(7) 国内競技連盟の権限の範囲内で、正当な理由によることなく禁止物質又は禁止方法を使用しているサポートスタッフが競技者に対して支援を提供することを防止すること。

(8) 加盟条件として、国内競技連盟のメンバー又は国内競技連盟により承認されたクラブの政策、規則及びプログラムが「世界規程」に準拠することを義務付けること。

(9) 「世界規程」及び「日本規程」の違反を防止するために適切な措置を講じること。

(10) 聴聞を要求することなく、国際競技連盟、JADA又はその他の署名当事者によるアンチ・ドーピング規則違反の認定を承認し、かつ尊重すること。ただし、その認定が「世界規程」に準拠し、関連団体の権限に基づく場合に限る。

(11) 通常登録していない競技者に対し、日本代表選手団の一員としてオリンピック競技大会に参加するための条件として、オリンピック競技大会の開催日の1年前から要求された場合には、検体採取に応じ、正確な最新の居場所情報を定期的に提出するよう義務付けること。

(12) 正式加入していない人で、JADAの検査対象者登録リストに加わる要件を満たしている人に対し、国際競技連盟に加入すること、及び国際競技大会又は国内競技大会に参加する少なくとも6か月前には検査を受けることを要求すること。

(13) JADA以外のアンチ・ドーピング機関により、本協会の競技者、サポートスタッフに対するアンチ・ドーピング規則違反の認定及びこれに対する制裁措置が行われた場合、JADAに速やかに通知すること。

(14) JADAと協力して、アンチ・ドーピング教育を推進すること。

第5条 〔本規程違反〕

1. アンチ・ドーピング規則違反を犯すことは、本規程に違反する。
2. 競技者、サポートスタッフ、その他の人、又は加盟団体が本規程に基づく本協会に対する義務に違反することは、本規程に違反する。

第6条 〔ドーピング防止規則違反の承認〕 《削除》

第7条 〔本協会が課す制裁措置〕

1. アンチ・ドーピング規則違反を犯したと認定された者は、日本アンチ・ドーピング規律パネルの決定に従いなされる本協会理事会の決定により、「世界規程」及び「日本規程」違反の重さに従って、日本代表選手団又はその選考の資格、本協会からの交付金、助成金及び補助金の交付の全部又は一部を受け資格、並びに、本協会で役職に就く資格を失う。
2. 制裁措置の期間は、「世界規程」及び「日本規程」の第10条及び第11条に従って決定される。
3. 本協会は、違反が1回目か2回目か3回目かを判断するにあ

第11条 〔活動評価〕

1. 本協会は、JADAが行う国内競技団体の活動についての評価のため、JADAに対して資料提供等の協力を行うことに努めるものとする。
2. 本協会は、JADAにより改善が必要とされた事項について、これと連携し、その改善に努めるものとする。

第12条 〔通知〕

本規程に基づいて制裁措置が課せられた場合には、本協会は科された制裁措置の詳細を下記宛に送付するものとする。

(1) F I F A

たり、いかなるアンチ・ドーピング機関によって課された以前の制裁措置をも承認する。

—

第8条 [規律手続]

1. アンチ・ドーピング規則違反が問われる全ての事件は、「世界規程」及び「日本規程」に従って判断され、「世界規程」及び「日本規程」の条項に従って認定され、不服申立がなされるものとする。

2. 「世界規程」第8条及び「日本規程」第8条に従って規律手続きは遂行されるものとする。

—

第9条 [通知]

本規程に基づいて制裁措置が課せられた場合には、本協会は課せられた制裁措置の詳細を下記宛に送付する。

(1) 関係する国際競技連盟

第10条 [不服申立て]

不服申立てについては、「日本規程」第13条の規定に従うものとする。

—

第11条 [アンチ・ドーピング規則違反の審査]

アンチ・ドーピング規則違反を犯したとして記録された者が後日、当該アンチ・ドーピング規則違反を犯していないことが判明した場合、又はその他の誤りがスポーツ仲裁裁判所、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構又はアンチ・ドーピング機関により明らかになった場合、本協会はアンチ・ドーピング規則違反及びそのアンチ・ドーピング規則違反の結果として課せられた制裁措置を取り消すものとし、本規程第9条により制裁措置が課された旨通知された全ての者に対し、そのことを報告するものとする。

第13条 [不服申立]

本協会は、JADAが日本規程第12条に基づいて本協会に科す制裁処分について、同規程に基づき、日本スポーツ仲裁機構(JSAA)に対して不服申立てをすることができる。

第12条 [解 釈]

本規程において使用された語は、「世界規程」及び「FIFA規程」並びに「日本規程」に従い解釈されるものとする。「世界規程」及び「FIFA規程」並びに「日本規程」は、本規程の一部とみなされるものとし、矛盾が生じた場合は、「世界規程」及び「FIFA規程」並びに「日本規程」が自動的に適用され、本規程に優先するものとする。

第13条 [改 正]

第14条 [施 行]

第14条 [他の署名当事者の決定の拘束力]

本協会は、署名当事者であるアンチ・ドーピング機関、不服申立機関、スポーツ仲裁裁判所（CAS）の行った決定は、JADA及び国内の競技団体に対して自動的に拘束力を有することを認め、これに従うものとする。__

第15条 [解 釈]

本規程において使用される用語は、世界規程及び日本規程並びに国際基準に従って解釈されるものとする。解釈における矛盾が生じた場合は、世界規程及び日本規程並びに国際基準が本規程に優先されるものとする。

第16条 [改 正]

第17条 [施 行]